

3. 経済学研究科

【到達目標】

本研究科は、国際化の進展した現代経済と現代ビジネスの場で活躍できる高度職業人または自立的研究者をより多く育成するために、これらを目指す高い意欲と優れた素質を持つ学生をより多く受け入れることを目標とする。具体的には、次の3点を到達目標とする。特に、国際的な場面での活躍が期待できる大学院生、資格取得を目指す目的意識の高い大学院生を積極的に受け入れる。具他的には、次の3点を到達目標とする。

- (1) 推薦入試、5年一貫教育等の制度を整備し、成績優秀な本学学部生の進学を促す。
- (2) 他大学在学者、外国人及び社会人に対して本大学院研究科の入試制度、教育体制、学位授与状況等に関する情報を積極的に提供する。
- (3) 社会人の入学を促進するために、弾力的な授業運営を図る。

【現状説明】

1) 学生募集方法、入学者選抜方法

博士前期課程の一般入試は秋季（9月）と春季（2月）に実施され、試験科目は専門（近代経済学、社会経済学、経済史、経済政策、国際経済論、財政学、金融論、経営学、会計学、貿易商務論、商業学のうち1科目）、語学（英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち1科目。日本経済史専修の者は古文書を選択できる）及び口述試験である。2004年度から2008年度までの志願者数、受験者数及び合格者数は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。

博士後期課程の一般入試は春季（2月）に実施され、試験科目は語学（英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語、その他研究科が特に認める外国語のうち1カ国語を選択）と口述試験である。2004年度から2008年度までの志願者数、受験者数、及び合格者数は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。

2) 学内推薦制度

本学4年次在学生または本学卒業後5年以内の者で、学業成績等が特に優れている者に対しては、教員推薦または自己推薦により、筆記試験を免除し、出願書類審査と口述試験で合否を判定している。また、2009年度入試から研究生を対象とする特別推薦入学制度も導入された。

3) 門戸開放

他大学・大学院の学生に対する門戸開放の状況は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。博士前期課程においては、例年、合格者の半数前後が他大学の出身者となっている。

4) 社会人の受け入れ

社会人を対象とした特別入試は秋季（9月）と春季（2月）に実施され、試験科目は小論文と口述試験である。2004年度から2008年度までの志願者数、受験者数及び合格者数は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。

5) 外国人留学生の受け入れ

外国人留学生を対象とした博士前期課程の一般入試は秋季（9月）と春季（2月）に実施され、試験科目は専門（近代経済学、社会経済学、経済史、経済政策、国際経済論、財政学、金融論、経営学、会計学、貿易商務論、商業学のうち1科目）、日本語及び口述試験

である。2004年度から2008年度までの志願者数、受験者数、及び合格者数は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。

外国人留学生を対象とした博士後期課程の一般入試は春季（2月）に実施され、試験科目は語学（英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語、日本語、その他研究科が特に認める外国語のうち1カ国語を選択。但し、母国語は除く）と口述試験である。2004年度から2008年度までの志願者数、受験者数及び合格者数は大学基準協会基礎データ 表18-3を参照されたい。

6) 定員管理

博士前期課程の入学定員は、2005年度に従来の10名から30名増員され、現在30名となっている。入学者数は、2004年度31名、2005年度23名、2006年度26名、2007年度15名、2008年度15名となっており、増員となった2005年度以降、定員割れが続いている。

博士後期課程の入学定員は4名で、入学者数は2004年度1名、2005年度1名、2006年度0名、2007年度1名、2008年度0名である。

【点検・評価】

1) 学生募集方法、入学者選抜方法

学生の募集時期及び試験科目は適切であり、合否判定も公正に行われている。しかし、2007年度以降、志願者数が顕著に減少しており、受験者確保のより一層の努力が必要であると思われる。

2) 学内推薦制度

成績優秀者に対する現行の学内推薦制度によって入学した大学院生は、入学後も優秀な成績を収めており、この制度は適切に設置され公正に運用されていると言える。また、2008年度から導入された研究生を対象とする特別推薦入学制度は、優秀な学生をより積極的に受け入れようとするものであり、評価に値する。しかし、前述の「飛び入学」でも触れたように、現在本研究科では飛び入学や5年一貫教育等の制度はない。優秀な学生をより多く確保するために、今後こうした制度の導入を検討する必要がある。

3) 門戸開放

博士前期課程の合格者のうち、例年、50%前後が他大学出身者となっており、門戸開放が進んでいると言える。しかし、合格者数の点では減少しており、改善が必要である。

4) 社会人の受け入れ

社会人の受験者数と合格者数は毎年5名前後にとどまっている。現在も土曜日等を有効に活用しつつ授業を行っているが、こうした措置をより一層充実させ、社会人が入学しやすい体制を整備することが必要である。

5) 外国人留学生の受け入れ

前述した入学者実績を分析すると、外国人留学生の受験者数に対する合格者数の割合は、2004年度55%、2005年度56%、2006年度89%、2007年度73%、2008年度73%となっており、入学定員が10名から30名に増えた2005年度以降、合格率が顕著に上昇している。定員確保のために入試難易度が低下した可能性を否定できない。しかし、入学後の教育体制についてはその充実化が図られており、学生の質の顕著な低下は確認されていない。と言え、外国人留学生の志願者数が近年顕著に減少していることは大きな問題であり、こ

の点については適切な対応がなされていなかったと言わざるを得ない。

6) 定員管理

定員増に踏み切った 2005 年度以降、定員割れが続いている。2008 年度の入学定員の充足率は 50% である。定員充足のための努力が不足していたと言わざるを得ない。

【改善方策】

1) 学生募集、入学者選抜方法

入学試験問題の内容を再検討し、受験者数の少なかった科目については問題傾向や出題形式を見直すなど、学生の受験意欲をより強く刺激するようなものに改善する。また、学内外での情報提供活動をより強化する。

2) 学内推薦制度

成績優秀な学生をより多く確保するために、2010 年度から 5 年一貫教育を導入する。

3) 門戸開放

他大学学生への情報提供活動をより強化する必要がある。具体策としては、本研究科ホームページにより詳細な入試情報を掲載することとする。

4) 社会人の受け入れ

より多くの社会人を受け入れるため、土曜日や集中講義等のさらなる有効活用を検討するとともに、修業期間が 1 年間のコースや特定課題研究修了コース等の設置についても検討する。

5) 外国人留学生の受け入れ

外国人留学生の志願者数を増やすために、東京都心や北京・上海等で学生の募集を行うことを検討する。また海外での入学試験の実施も検討されるべきである。

6) 定員管理

現在の入学定員は近年の入学者数の現状から少なからず乖離している。このため、2010 年までに本研究科にとって適切な入学定員の規模を再検討する。